

令和3年度

教育事務に関する 点検及び評価報告書

《令和2年度事務事業分》



令和3年11月

七戸町教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることになりました。

七戸町教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者からなる「七戸町教育評価審議会」からご意見等をいただきながら、教育委員会の事務の管理・執行状況について点検及び評価を行い、報告書を作成いたしました。

この結果をこれからの施策等に反映させ、教育施策を着実に推進していきたいと考えておりますので、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

- 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務
その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	令和2年度七戸町教育施策の基本方針	5
III	令和2年度教育委員会の活動状況について	18
IV	令和2年度教育委員会の事務事業に対する教育評価審議会委員からの意見	19
V	令和2年度施策別主要事業一覧	21
	各事業評価シート	22～86

I 点検・評価の概要

1 点検・評価の対象

(1) 点検・評価の対象

七戸町教育施策の方針に基づいて実施する学校教育、社会教育、社会体育、文化財保護と芸術文化振興等の各分野を構成する主な事務事業を対象に点検・評価を行った。

(2) 点検・評価の方法

各分野、施策に属する事務事業を点検・評価するため、事務事業ごとに事業費、目的、事業効果等を整理し、その結果に基づいて事業評価及び今後の取組等について記載した。

(3) 学識経験者の知見の活用

教育委員会が実施した点検・評価の客観性を確保するため、教育評価審議会を開催し、教育に関し学識経験を有する者（教育評価審議会委員3人）から意見をいただき、点検・評価の実施と報告書の作成を行った。

2 点検・評価作業の経緯

令和3年	8月23日	第1回教育評価審議会
	9月15日	第2回教育評価審議会
	10月27日	第3回教育評価審議会
	〃	教育評価審議会が令和2年度教育委員会の事務事業に対する意見書を提出
	11月15日	文教厚生常任委員会において本報告書（案）説明
	11月26日	教育委員会定例会において本報告書（案）を承認
	11月30日	町議会定例会に本報告書を提出

3 評価報告書の公表

七戸町ホームページに掲載し公表する。

4 点検・評価に際し、委嘱した学識経験を有する者

七戸町教育評価審議会

委員 伊藤 清治

委員 澤田 良子

委員 中村 美知代

5 前年度（令和元年度事務事業分）の点検・評価における教育評価審議会委員からの意見に対する説明

教育評価審議会委員からの意見	所管課回答
<p>1 各事業について、全体的には見直し改善しながら取り組みされていて、成果が出ていることが認められる。今後も検討を重ねて事業の充実に努めていただきたい。</p>	<p>事務事業の目的や効果を意識しながらより充実すべき内容や見直し改善すべき事項などに対し、今後も継続して取り組んでいきます。</p>
<p>2 学校でのプログラミング教育は、今後、児童・生徒が ICT を活用するうえで、基礎となる教育であるので、しっかりと定着できるよう努めていただきたい。</p>	<p>義務教育段階のプログラミング教育は、以降のキャリア形成にも直結することであるため、各校情報担当教員と連携しつつ、関連教材・ソフトウェアの整備を行っていきます。</p>
<p>3 ICT 活用について、機器やネットワーク環境の整備に努め、プログラミング教育に関する教職員の体制づくりを含め、支援を検討していただきたい。</p>	<p>中部上北広域事業組合教育委員会と連携し、管内の教職員の情報活用能力向上を目的とした研修を企画・実施しております。また、ICT 支援員を各校巡回する形で派遣し、端末操作やソフトウェア活用等のサポート体制を構築しています。</p>
<p>4 ICT 活用が進むことに伴い、学校や子どもに関連する情報セキュリティ対策と情報モラル教育を行っていただきたい。</p>	<p>令和 2 年 9 月に七戸町教育情報セキュリティポリシーを策定し、学校における教育情報資産の取扱い等について規定しました。また、情報モラルに関する啓発資料の周知や、関連動画等を紹介し、児童生徒並びに教職員の情報倫理の形成を図っています。</p>
<p>5 不登校問題について、学校では適切な対応をとっていると思うが、その中には、進学意思があっても集団に入って学習活動することが難しい生徒がいるので、そのような子にも、さらに支援していただきたい。</p>	<p>これまでも、個々の児童生徒に応じた支援は実施しており、家庭と学校、関係機関との連携により保護者との信頼関係の構築を図り、気軽に相談できる体制を整備しています。本人の希望を尊重し、学校長、学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が連携し支援を行っていきます。</p>

教育評価審議会委員からの意見	所管課回答
6 教職員の多忙化を解消できることを着実に行っていただきたい。	働き方改革に係る取り組みについては、学校閉庁日の設定や町費負担臨時教員の配置など多忙化解消に向けた取組を実施しているところではありますが、今後も教職員の勤務状況の把握を行いながら働きやすい環境づくりに努めていきます。
7 奨学資金貸付事業に関して、貸付額の増額を検討されているようだが、償還する時のことも考慮し、慎重に検討していただきたい。	貸付上限額の見直しについては、利用者の要望を適切に把握しながら、償還が滞ることがないように慎重に検討し、事業の安定的な運営に努めていきます。
8 国際交流事業の見直しにより、英語に触れる機会が減ることが心配される。子どもの育成にとって意義のある重要な事業と考えるので、充実させる方向で見直し検討していただきたい。	<p>国際交流事業は、子どもたちが海外において異文化に触れることで、国際的な感覚を身に着ける一助となり、貴重な経験を得ることができます。</p> <p>しかし、事業の実施に当たっては、多額の経費に係る財源の問題や世界的な新型コロナウイルス感染症の状況など、当面は実施することが困難であると考えます。</p> <p>今後は、小学生を対象としたイングリッシュデイ、中学生を対象としたイングリッシュキャンプといった異文化交流事業を中心に、外国人講師によるネイティブな英語に触れる機会の充実を図ります。</p>
9 子どものあいさつは良くなってきていると見受けられるので、今後も、あいさつ運動を重要な事業として進めていただきたい。	<p>青少年育成七戸町民会議で実施する「あいさつ運動」は、地域の各団体からご協力いただき、毎年多数の参加者が子どもたちと元気なあいさつを交わすなど、夏休み明けの行事として定着してきています。</p> <p>学校と地域が連携して子どもたちを見守るという意識向上のためにも、今後も継続してまいります。</p>

教育評価審議会委員からの意見	所管課回答
<p>10 ニツ森貝塚について、現在のところ、着々と事業を行っているようである。今後も、世界遺産登録に向けて施設整備、管理運営体制の充実に努めていただきたい。</p>	<p>ニツ森貝塚のガイダンス施設については開館準備が完了した。今後は適切な管理運営と一層の充実を図っていきます。</p>
<p>11 図書館（室）の利用を促進するために、工夫しながら事業が進められているが、さらに、町民のニーズを取り入れながら検討を重ねていただきたい。</p>	<p>図書館の魅力や活用方法など、館内展示や広報のほか、各種事業の際に PR を行うなどして、利用者拡大に努めていきます。</p>
<p>12 新図書館の整備にあたっては、将来充実した施設となるよう十分な検討を重ねていただきたい。</p>	<p>新図書館を整備する際は、利用者ニーズ（立地、設備等）を踏まえ検討を行います。</p>

Ⅱ 令和2年度七戸町教育施策の基本方針

七戸町教育委員会は、「潤いと彩りあふれる田園文化都市」の形成に向け、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、

- 1 「生きる力」を育むための、子どもたちの未来のための、学校教育
 - 2 学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上
 - 3 伝統文化を尊重し、我が郷土に誇りをもつ態度の育成
 - 4 生涯を通して生き生きと学び続ける機会や場の提供
- を、関係機関・団体、地域との密なる連携を図りながら推進します。

—「生きる力」を育むための、子どもたちの未来のための、学校教育—

学校教育の方針と重点

1 方針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育の推進に努める。

2 重点

(1) 授業の充実

一人一人の子どもが、各教科や総合的な学習の時間等において主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、児童生徒理解に基づいた学年・学級経営の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア 教材研究の深化と魅力的な授業づくりの推進

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得
- ・ 言語活動の充実を図り、学習意欲を高めるために、解決する必要感のある「めあて」（学習課題）の設定と解決の「見通し」を持たせる場の工夫
- ・ 自己の考えを深める対話的な学びにするための適切な授業形態の工夫
- ・ 目指す資質・能力の明確化・児童生徒の習熟の程度の把握・教材研究の深化に基づく、「習得・活用・探究」の学習過程を大切にした授業の実践

イ 指導と評価の一体化

- ・ 評価の観点に対応した指導と評価の一体化の充実
- ・ 必要に応じた補充的学習や発展的学習の導入
- ・ 学習内容の定着を図る「まとめ」と次の学びにつなげる適切な「振り返り」の場の工夫

ウ 学習環境づくりと学習習慣の確立

- ・ 生徒指導の機能を生かした授業や学年・学級経営の充実
- ・ 学校間や家庭と連携した学び方や学習習慣の確立
- ・ 一人一人を生かすための学習環境の整備
- ・ 読書習慣を身に付けるための読書活動や学校図書館・ICTの効果的な活用

(2) 道徳教育の充実

一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他の社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、教育活動全体を通じて道徳性の育成に努める。

ア 教育活動全体を通じての道徳教育の充実

- ・ 児童生徒の発達段階や特性等を考慮し、道徳科の特質を生かした多様な指導方法の

工夫

- ・ 道徳教育推進教師を中心とした、道徳教育を推進する指導体制の整備・充実と校内研修の実施

イ 道徳性の育成や社会性の育成を目指した体験活動

- ・ 道徳の判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫
- ・ 道徳の時間との関連性を明確にした体験活動の年間指導計画の作成・見直し

ウ 郷土を愛する心を育む指導の充実

- ・ 我が国や郷土の伝統・文化に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進
- ・ 郷土教材及びその素材の保存と共有、開発と活用

(3) 特別活動の充実

一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、望ましい集団や豊かな体験の中で互いの個性を認め合い、協力してよりよい生活や人間関係を築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。

ア 話し合い活動を生かした学級活動の実践と改善

- ・ 横断的な視点に立った年間指導計画の作成および見直し
- ・ 望ましい人間関係づくりや、生活をよりよくするための活動の工夫
- ・ 話し合って合意形成を図り、主体的に実践し、振り返る活動の充実

イ 主体的に活動する児童会活動・生徒会活動の工夫

- ・ 指導のねらいを明確にした活動内容の設定
- ・ 児童生徒の発想や計画を生かし、自治的・自発的な活動の指導・支援の工夫

ウ 児童の個性を図り、伸長と触れあいを深めるクラブ活動の工夫

- ・ 児童の自発的な発想を生かしたクラブ活動の工夫
- ・ クラブ活動の教育的意義について共通理解を図り、児童が必要に応じて話し合い活動をするなど、協力して運営できる指導の充実

エ 集団への所属感や連帯感を深める学校行事の工夫

- ・ 教育活動全体を見通した調和のとれた学校行事の指導計画の作成
- ・ 行事のねらいや意義を理解させ、一人一人の児童生徒に具体的目標を持たせるための指導及び運営
- ・ 学校行事の評価の工夫

(4) 体育・健康教育の充実

一人一人の子どもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。

ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実

- ・ ICTや話し合い活動を取り入れ、自己の能力に適した課題を見つけることができ

る指導の工夫

- ・ 体力テストの分析から、個人・集団の課題の明確化と課題解決に向けた具体的取り組みの充実

イ 保健学習及び保健指導の充実

- ・ 児童生徒の心身の健康状態を把握し、個人や集団の課題を明確にした指導の充実
- ・ 教科体育・学級活動等における保健学習及び保健指導等、教育活動全体を通じた体系的な保健教育の充実

ウ 食に関する指導の充実

- ・ 肥満傾向や過度の痩身、偏食、アレルギー等の個別指導が必要な子供への指導における担任、養護教諭と保護者との連携強化
- ・ 児童生徒の食生活の実態を踏まえ、望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実

エ 安全管理及び安全教育の充実

- ・ 各学校の実情に応じた危機管理マニュアルの見直し及び危険を予測し、安全に行動できるようにするための発達段階に応じた指導の工夫

オ 健康・安全のために、家庭や地域社会及び関係機関等との連携の推進

(5) 生徒指導の充実

一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。

ア 自己指導能力を育む協働的な指導体制の充実

- ・ 全教職員の共通理解に基づいた実践項目の設定と校内研修等のさらなる充実
- ・ いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期対応及び組織的な初期対応の充実
- ・ 問題行動・不登校等への組織的な取り組みの充実及び取り組み状況を定期的に点検・改善する機会や場の設定
- ・ 児童生徒の健全育成を図った学校間、家庭、地域社会及び関係機関等との連携

イ 生徒指導の機能を生かした授業や学年・学級経営の充実

- ・ 児童生徒との信頼関係を基盤とし、生徒指導の機能を生かした授業や取り組みの充実
- ・ 個に寄り添った教育相談体制及び組織的な初期対応の充実

ウ 児童理解・生徒理解を深める教育相談の実施

- ・ 児童生徒の内面理解に努める組織的な教育相談体制の充実
- ・ 日常的な指導状況等についての教職員間及び保護者との確実な情報共有

エ いじめの積極的な認知と組織的な対応の徹底

- ・ 児童生徒が自ら援助を求めることができるよう、教職員と児童生徒の信頼関係を深め、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の外部専門家を学校いじめ対策組織に参画させ、初期段階からの積極的認知と対応
- ・ 児童生徒の些細な変化の共有と組織的な対応

(6) キャリア教育の充実

一人一人の子どもが、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力、態度の育成に努める。

ア 指導体制の整備・充実

- ・ 学級活動をキャリア教育の要として位置付けた全体計画及び年間指導計画の作成・見直し
- ・ キャリア教育で育む資質・能力や具体的な指導場面等について全教職員で共通理解を図る場の設定

イ 現在及び将来の生き方を考え行動し、活動の過程を記録する指導の充実

- ・ 学級活動の中で将来の夢や目標について考えさせたり、学ぶこと、働くこと、生きることの結び付きについて、身の周りにある課題を解決するために主体的意思決定に基づいて協働的に課題解決に取り組ませたりする指導の充実
- ・ 活動の過程を記録し蓄積する教材等を活用した指導の充実
- ・ 幅広い啓発的体験活動の意図的・計画的実施、保護者への積極的な情報発信の推進
- ・ 児童生徒の個性や能力の把握、悩みを解消するための具体的指導やキャリアカウンセリングの充実
- ・ 進路に関する情報や資料を整備・蓄積し、効果的な活用

ウ 啓発的体験学習の充実

- ・ 社会参画意識の醸成や働くことの意義を意識させる体験活動の充実（小学校）
- ・ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成を図る体験活動の充実（中学校）
- ・ 家庭や地域社会の協力を得た職場見学、職場体験等の更なる充実

(7) 特別支援教育の充実

発達障害を含む障がいのある子どもが、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

ア 校内支援体制の整備・充実

- ・ 校内及び校種間における引き継ぎ体制の整備と組織的・継続的支援
- ・ 研修の充実による全教職員の専門性の向上

イ 共生社会の形成に向けた、指導の充実

- ・ 個に応じた適切な教育課程の編成と指導と評価の充実
- ・ 共生社会の形成に向けた、ねらいや手立てを明確にした組織的・計画的な交流及び共同学習の実施
- ・ 個別の指導計画の作成と活用による指導の充実

ウ 家庭や地域社会及び関係機関との緊密な連携

- ・ 個々の障害の特性、将来の進路、指導方法に関する保護者との連携
- ・ 将来の自立や社会参加にむけて個別な支援計画の作成と家庭や地域社会及び関係機

関との緊密な連携

(8) 環境教育の推進

一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。

ア 教科等間の連携を踏まえた指導の工夫

- ・ 全教職員による教育環境の趣旨の共通理解と校内指導体制の整備
- ・ 環境教育との関連を位置づけた、各教科等の年間指導計画の作成および指導の工夫

イ 地域の環境の実態に即した指導の工夫

- ・ 小学校と中学校の連携に配慮し、効果的で継続的な指導

ウ 環境にかかわる体験活動の推進

- ・ 環境保全に主体的に取り組む態度を身に着ける体験活動の充実
- ・ 学んだことを実生活に生かすための、積極的な情報発信及び家庭や地域社会、関係機関との連携の充実

(9) 国際化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。

ア 我が国や郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進

- ・ 郷土の自然・歴史・伝統・産物等に関する全教育活動を通じた計画的な指導の充実
- ・ 我が国と諸外国の文化等を相互理解するための指導の工夫
- ・ 異なった文化や習慣を持つ人々との交流の工夫

イ 外国語を通してコミュニケーションを図る資質・能力の育成

- ・ A L Tなどの効果的な活用及び各学年の領域に応じた言語活動の工夫・充実

ウ 異なった文化や習慣をもつ人々との交流の推進

- ・ 異なった文化や習慣、言語の人々との交流などを通して、世界への関心を深め、広い視野で物事を考えられるような児童生徒の育成

(10) 情報化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。

ア 情報教育を推進する指導体制の整備・充実

- ・ 組織的・計画的な情報教育の推進
- ・ 情報教育を推進するための校内研修等の計画・実施
- ・ 情報担当者を中心とした全体計画・年間指導計画の見直し、授業公開や活用事例蓄積といった I C T活用面での運用、教育情報セキュリティーポリシーの策定及び見直し

イ 学習指導における I C Tや各種資料統計等の適切な活用の推進

- ・ 発達段階に応じた ICT の活用能力の育成
 - ・ 学習過程に適切に位置づけた ICT の活用
- ウ 家庭や地域社会と連携しながら児童生徒の安全を守る「情報モラル教育」の推進
- ・ インターネット上のトラブルから身を守るための知識や判断力を身につける活動の工夫
 - ・ 各教科等や生徒指導と関連させた指導及び家庭や地域社会、関係機関と連携した指導の充実
- (11) 総合的な学習の時間の充実
- 自校で育てようとする資質や能力及び態度を明確にした総合的な学習の時間の充実に努める。
- ア 目標及びその趣旨の共通理解
- ・ 各学校における教育目標を踏まえたうえでの目標や内容の設定
- イ 六つの要素（目標、内容、学習活動、指導方法、学習の評価、指導体制）を示した全体計画及び年間計画の改善
- ・ 小学校と中学校の接続を意識した計画的な取り組みの推進
- ウ 学習活動の充実
- ・ 他者と協同して問題を解決しようとする学習活動の充実
 - ・ 社会体験、体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論等の学習活動の工夫
- エ 評価方法の工夫
- ・ 自校の目標や内容に沿った評価の観点の設定と育てようとする資質や能力及び態度の育成を適切に評価するための評価基準の設定
 - ・ 学習の結果だけでなく、学習の過程の評価方法の工夫
- (12) 研修の充実
- 教職の専門性を高め、教育活動の充実に努めるため、計画的・実践的な研修の充実に努める。
- ア 組織的・計画的な研修の整備・充実
- ・ 同僚性を発揮し、所属学年・専門教科の枠を超えて主体的・協働的に取り組む研修体制の整備・充実
 - ・ 校内外の研修から得た情報を共有する場の確保に努め、教育専門職として調和のとれた研修を推進
- イ 学校の教育課題解決のための実践的研究方法や評価方法等の明確化と検証の共有化
- ・ 日常の授業実践に生かす、児童生徒の変容の評価・検証の工夫
- ウ 新学習指導要領に基づく実践的研究の充実
- ・ 新学習指導要領の趣旨と内容の十分な理解に基づいた実践的研究の充実

—学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上—

社会教育行政の方針と重点

1 方針

町民が、自己の向上を目指して生きがいのある充実した生活を送るとともに、豊かで住みよい地域社会をつくり出すことができるよう、学びを生かしつながりをつくり出す社会教育の推進に努める。

2 重点

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

ア 青少年の体験活動の充実

- ・ 身近な地域における体験活動での異年齢交流や世代間交流の促進
- ・ 関係団体との連携による、活動内容の充実

イ 地域が支えるキャリア教育の充実

- ・ 企業や関係機関・団体との連携による、キャリア形成のための学習機会の充実

ウ 地域全体で子どもを育む活動の充実

- ・ 学校支援ボランティア組織への支援
- ・ 学校・家庭・地域の協働による教育活動の充実

エ 家庭教育支援の充実

- ・ 学校及び関係機関との連携による、幼児期、学童期、思春期の子どもを持つ親に対する学習機会の充実
- ・ 子育てサークル等の家庭教育支援団体の育成と支援

(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

ア 地域活動の実践者の育成

- ・ 家庭教育支援や各種ボランティア活動等についての、新たな実践者の育成
- ・ 地域課題に対応した学習機会の提供及び企画運営に参画できる体制づくり

イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成

- ・ 各種ボランティア団体やサークルの地域活動の計画的支援並びに養成
- ・ 資質向上のための研修機会の提供

ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

- ・ 各地域の指導者及びコーディネーター相互の交流機会の提供
- ・ 関係機関・団体等と連携協力するためのネットワークづくりの推進

(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

ア 関係機関との連携による多様な学習活動の支援

- ・ 多様な学習ニーズや地域課題をもとに、それらに応じた学習機会や学習の成

果を発表する場の充実

- ・ 関係機関との連携による学習内容の充実並びに主体的な学習活動の支援
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援
- ・ 各種発表会・イベント・地域行事への参加等、学習の成果を生かす機会や発表の場の充実
 - ・ 学習者・参加者が企画立案にかかわるための実施体制の改善及び社会参加活動への支援
- ウ 国際化へ対応できる人材の育成
- ・ 小中学生を対象とした、ネイティブな英語に接する機会の提供

(4) 社会教育推進のための基盤整備

ア 社会教育推進体制の充実

- ・ 多様化する学習ニーズを反映させた社会教育計画の策定と、改善に役立つ事業評価の創意工夫
- ・ 関係機関・団体との連携協力体制の強化

イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進

- ・ 地域の特色と、公民館、図書館等の社会教育施設の特性を生かした取り組みの推進と活用の促進
- ・ イベントや講座等の企画の充実と周知方法の工夫による、施設活用の促進

ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上

- ・ 社会教育主事や図書館司書、学芸員等の有資格者の計画的な養成
- ・ 社会教育関係職員の研修機会の充実と資質の向上

エ 社会教育関係団体等の活動の支援

- ・ 社会教育関係団体指導者の各種研修への積極的な参加支援
- ・ 指導者養成研修の計画的な実施

※「人財」とは

青森県では、「人は青森県にとっての「財（たから）」である」という基本的考えから、「人材」を「人財」と表しています。この七戸町教育施策の基本方針でも「人財」という言葉で統一しています。

—学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上—

公民館の方針と重点

1 方針

公民館は、社会教育機関として町民の学習要求に応えるほか、地域社会の活性化を図るために、良好な人間関係を基盤とした住民相互の豊かな関係を醸成するなど、地域づくりの拠点となることから、多くの町民が公民館に関心を持ってもらうとともに、更なる公民館利用促進につながるよう努める。

2 重点

(1) 公民館等の充実及び活用の促進

ア より多くの住民が利用しやすい公民館となるような環境整備

- ・ 施設や備品の計画的な整備促進

イ 自己啓発・向上に資する講座・研修会等の開催

- ・ 子ども対象事業及び親子対象事業の充実
- ・ 地域活動に参加できるきっかけ（地域デビュー）の提供

ウ 各分野のリーダーの計画的・体系的な育成

- ・ 新たな自主グループの発足に向けての相談や支援の充実
- ・ グループ活動に繋がる主催講座の実施

(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援

ア 学習活動を支援する指導者・コーディネーター等の紹介・斡旋

- ・ 町内の人財活用
- ・ 利用者相互の交流の促進

イ 学習活動に必要な施設設備等の有効活用及び情報機器等による学習情報の提供

- ・ 県及び上北教育事務所管内で開催されるイベント及び各種講座、学習会の周知

ウ 各種発表会・展示会等、文化創造活動の機会と場の提供

- ・ 活動成果の積極的な披露

—学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上—

図書館の方針と重点

1 方針

地域住民の資料や情報センターとしての役割を果たすとともに、ボランティア団体等の活動の支援や利用者のニーズに対応した環境整備と情報提供に努める。

2 重点

(1) 図書資料の整備充実と利用の促進

ア 図書館資料の充実

- ・ 蔵書のバランスを考慮し、かつ利用者ニーズに対応した一般書・児童書の収集整備
- ・ 地域資料の積極的な収集整備

イ 図書館サービスの充実

- ・ 予約・リクエスト・相互貸借サービスの利用による、利用者と本を結びつけるための迅速・適切な対応
- ・ レファレンスサービス（図書館資料を用いての調べもの案内）の強化

(2) 読書活動の推進

ア 子供の読書活動の推進

- ・ 幼児・児童が本に親しむ環境の整備
- ・ 日頃読書習慣のない児童に向けた、本に触れる機会の提供
- ・ 「ブックスタート事業」の推進
- ※ 乳児が絵本をとおして家族との触れ合いの時間を持ち、さまざまな子育て支援につなげるきっかけづくりを行う。

イ 生涯学習の推進及び支援

- ・ 生涯学習のきっかけとなる、さまざまな文学作品に触れる機会の提供
- ・ 読書団体への資料提供等協力や催事への後援

ウ ボランティア活動の育成と支援

- ・ 図書ボランティアの円滑な活動のための各種研修会への派遣や活動機会の提供

—伝統文化を尊重し、我が郷土に誇りをもつ態度の育成—

文化財保護と芸術文化振興の方針と重点

1 方針

町民一人一人が、郷土に対する愛着と誇りを持ち、潤いのある生活の実現を目指すとともに、芸術文化の伝承・創造や貴重な文化財の保存・活用の推進に努める。

2 重点

(1) 芸術文化活動の充実

芸術文化団体及びサークル等の自主的な活動を奨励し、その伝承・創造を促進するための支援に努める。

ア 芸術文化に関する団体及びサークル等の育成

- ・ 自主的な活動についての町内外への情報の発信
- ・ 芸術文化団体及びサークル等の連携による発表会の機会の創設

イ 鷹山宇一記念美術館等との連携

- ・ 芸術文化団体及びサークル等への研修機会の提供
- ・ 子ども・青少年が芸術に直接触れることのできる機会の提供

(2) 文化財の保存・活用の充実

町内に存在する有形・無形の文化財等の保存・活用とその環境の整備に努める。

ア 史跡二ツ森貝塚の世界文化遺産登録に向けた取組

イ 文化財の保存

- ・ 歴史上や学術上価値の高い有形・無形文化財や埋蔵文化財、民俗文化財等の保存
- ・ 文化財保護の周知・啓発
- ・ 国史跡指定地の公有地化

ウ 文化財の管理・活用

- ・ 二ツ森貝塚ガイダンス施設の整備
- ・ 史跡や天然記念物などの保存のための管理と環境保全
- ・ 保管している文化財の公開展示と公開講座等の開催

(3) 伝統芸能・工芸技術等の継承

郷土に伝わる伝統芸能・工芸技術等の保存・継承を奨励し、それに相応しい環境の整備に努める。

ア 伝統芸能・工芸技術等の保存

- ・ 歴史的価値の高い伝統芸能・工芸技術等の保存
- ・ 記録の作成等による保存と情報の発信

イ 伝統芸能・工芸技術等の継承

- ・ 伝承活動及び後継者の育成に対する支援
- ・ 伝統芸能・工芸技術等の発表機会の奨励・支援

(4) 文化交流センター施設の管理

ア 文化交流センター内にある資料の保存管理

—生涯を通して生き生きと学び続ける機会や場の提供—

社会体育の方針と重点

1 方針

町民が、健やかで活力に満ちた生活の実現を目指すとともに、健康の維持増進・体力の向上に必要なスポーツ活動及び夢や感動を与える競技者・団体の育成等を通じて生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりの推進に努める。

2 重点

(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現

心身両面にわたる健康の維持増進と体力の向上を図るとともに、町民1スポーツの普及・奨励に努める。

ア スポーツに親しむ環境づくり

- ・ スポーツへの興味・関心を高める各種教室・講習会等の開催やスポーツ活動の機会の提供
- ・ 健康とスポーツとの関わりや気軽にできる軽スポーツ等の情報の提供

イ 地域スポーツ活動の普及・奨励

- ・ 町民相互の連携及び地域の活力の醸成を図るスポーツ交流の普及・奨励
- ・ 誰でもスポーツに親しめる総合型地域スポーツクラブ設立への取組

(2) 競技者の育成を図る環境づくり

競技者の競技力の向上を図るとともに、トップレベルの競技者の育成に努める。

ア 競技力を高める環境づくり

- ・ 町体育協会やスポーツ少年団等の自主的な活動の奨励・支援
- ・ スポーツ科学を活用した選手及び指導者の育成と研修機会の提供

イ 各種スポーツ大会出場の奨励

- ・ 競技選手の強化支援体制の充実
- ・ 指導技術に長けた指導者の活用

(3) スポーツ振興の体制整備

生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、スポーツに親しみ競技力を向上させる体制整備に努める。

ア 指導者の確保

- ・ 要請に応じて地域やスポーツ団体へ指導者を派遣できる体制整備・活用
- ・ スポーツ推進委員や体育協会会員の研修会・講習会等への派遣

イ スポーツ振興の充実

- ・ 体育協会を中核として各種スポーツ団体や職域団体、地域の代表等の相互理解に基づく生涯スポーツへの取組
- ・ 構成する各種団体からの指導者の相互派遣

ウ 社会体育施設等の有効活用・利用促進

- ・ スポーツ担当職員の研修の充実と実地指導による支援
- ・ スポーツ活動推進に関する情報の収集・発信
- ・ 利用者ニーズに即した施設改修・整備の促進

Ⅲ 令和2年度教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）により、平成29年5月17日から教育長及び4人の委員をもって組織し、学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関することや教育財産の管理に関すること、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関すること等を管理、執行した。

1 教育委員の構成

令和3年3月現在

役職名	氏名	任期
教育長	附田道大	令和2年5月17日～令和5年5月16日
教育長職務代理人	山田典郎	令和2年5月17日～令和6年5月16日
委員	山本貴子	平成30年5月17日～令和4年5月16日
委員	附田由喜枝	平成29年5月17日～令和3年5月16日
委員	菊池龍達	令和元年5月17日～令和5年5月16日

2 教育委員会の開催状況

七戸町教育委員会の会議は、毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催している。

また、所管する事項について調査及び研究を行い、現状の把握や課題の解決に努めるなど、教育行政の推進を図っている。

(1) 教育委員会会議（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

開催回数		付議案件		
定例会	臨時会	報告	議案	協議
12	1	32	41	3

3 教育委員の会議以外の活動状況

教育委員は、毎月1回開催する定例会議、必要に応じて臨時会議に出席しているほか、学校等の教育施設を訪問して教育現場の状況を把握するとともに、研修会や教育委員会主催の各種行事に参加し、委員としての幅広い識見を養い、当町の教育行政の向上に努めている。

(1) 主な活動

学校訪問（小学校3校、中学校2校）	上十三教育委員会連絡協議会研修会
小・中学校入学式・卒業式等の学校行事	教育福祉援助基金（奨学生選考及び授与）
教育奨励賞（受賞者選考及び授与）	新型コロナウイルス感染症対策本部会議
奨学生選考委員会（奨学資金貸付事業）	

IV 令和2年度教育委員会の事務事業に対する教育評価審議会委員からの 主な意見

七戸町教育委員会の事務事業評価の取り組みは、平成21年度に実施した平成20年度事務事業分から開始し、13回目の事業評価となるが、事業内容等が改善し、教育の充実が図られるよう評価を行ってきた。

令和2年度事務事業について、同様に評価し審議した結果、以下のとおり、意見を述べる。

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各事業の中止や規模を縮小して実施するなど各団体の活動が制約される中、開催時期等を見直すなど事業を進めていくための工夫も見受けられた。今後も、各団体の活動が継続していけるよう新しい考え方を取り入れながら進めていただきたい。
- 事務事業の見直しにあたって、新型コロナウイルス感染症により例年どおり事業を行うことができなかったことをきっかけとして、事業を精査できる機会と捉え、スクラップアンドビルドを意識して取り組んでいただきたい。
- 事業評価シートの作成について、各事業の取り組みに関して事業予算が伴わない場合であっても、関係機関との連携など事業を進めるうえで重要となる取り組みや留意すべき事項については、その内容が十分に評価できるよう事業評価シートに表記していただきたい。
- ICTについて
 - ①GIGAスクール構想に基づき児童生徒一人ひとりにタブレット端末が整備される予定であることから、今後も継続して、ネットワーク環境の整備やプログラミング教育に関して教職員の支援体制の充実に努めていただきたい。
 - ②ICTの活用が進むことに伴って、情報セキュリティ対策と情報モラルの教育がこれまで以上に必要とされることから、児童生徒及び教職員等に対する情報倫理の形成に引き続き努めていただきたい。
 - ③児童生徒のICT環境が整備されてきているため、学校で取り組んでいることを保護者に理解していただきながら、今後、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため休校になった場合を想定した体制づくりについて、検討を進めていただきたい。
- 特別支援教育に関する事業について、支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、その支援方法も多様化している。このため、支援員の増員だけでなく、定期的な異動及び知識や技術を身につける研修など、支援員の技量を確保しながら、より効果的・効率的な対応を行っていただきたい。

- 学校生活相談員配置事業について、タブレット端末が一人ひとりに整備される予定であることから、いじめ等を未然に防ぐため、いつでも相談できる体制はますます必要となってくる。今後も事業を継続し、より一層児童生徒がお互いに気持ちよく安心して学校生活できるよう支援の充実に取り組んでいただきたい。
- ユニバーサルスポーツについて、ボッチャ競技など障がいがあっても老若男女すべての町民が楽しめるスポーツであることを、これまで以上に周知しながら普及活動に取り組んでいただきたい。
- 二ツ森貝塚について、世界文化遺産登録に向けた環境整備や管理運営体制づくり等が着実に進んでいる。また、ボランティア団体との連携など、町民との協働による活動や広報活動の充実に取り組んでいただきたい。
- 図書館事業について、施設整備に関する議論が進められていると思うが、地域の方々の意見を反映していくことや実際に使う人たちの意見を聞けるような場を設けながら、検討を重ねていただきたい。

令和3年10月27日

七戸町教育評価審議会

委員 伊藤 清治

委員 澤田 良子

委員 中村 美知代

V 令和2年度施策別主要事業一覧

施策分野	重点項目	事業細目番号	事業名	所管※	継続	充実	廃止	縮小	統合	完了	見直し 検討	その他	
1	(1) 授業の充実	1 (1) ①	町費負担臨時教員配置事業	学務	●	●							
			② 少人数学級編制等研究事業	学務	●								
			③ 英語教育コーディネーター配置事業	学務	●	●							
	(2) 道徳教育と特別活動の充実	1 (2) ①	七戸町教育奨励賞	学務	●	●							
			② 教育福祉援助基金給付事業	学務	●								
			③ 奨学資金貸付事業	学務	●								
		④ 特色ある学校づくり推進事業	学務	●									
(3) 体育・健康教育の充実	1 (3) ①	学校検診事業	学務	●									
		② 七戸町学校保健会補助事業	学務	●									
		③ 七戸町児童生徒対外遠征費補助事業	学務	●									
		④ 要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業	学務	●	●								
		⑤ 学校給食費給付金交付事業	学務	●	●								
(4) 生徒指導・特別支援教育の充実	1 (4) ①	特別支援教育支援員配置事業	学務	●	●								
		② 学校生活相談員配置事業	学務	●	●								
		③ 教育支援委員会	学務	●	●								
		④ スクールソーシャルワーカー配置事業	学務	●	●								
(5) 国際化に対応する教育の推進	1 (5) ①	外国語指導助手(A L T)派遣事業	学務	●									
(6) 研修の充実	1 (6) ①	七戸町教育振興会補助事業	学務	●									
		② 教職員ふるさと研修事業	学務	●									
2	(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人材の育成	2 (1) ①	家庭教育支援総合推進事業	生涯	●								
			② 放課後子ども教室推進事業	生涯	●	●							
			③ 異文化交流事業	生涯	●	●							
			④ 国際交流推進事業	生涯				●					
(2) 次代を担う青少年の育成	2 (2) ①	成人式開催事業	中公	●							●		
(3) 社会教育推進のための基盤整備	2 (3) ①	七戸町子ども会育成連絡協議会支援事業	生涯	●									
		② 青少年育成七戸町民会議	生涯	●									
3	(1) 芸術文化活動の充実	3 (1) ①	町立美術館の指定管理委託事業	生涯	●								
			② 文化芸術鑑賞事業	生涯	●								
			③ 七戸町民文化祭開催事業	生涯	●								
	(2) 文化財の保存・活用の充実	3 (2) ①	世界文化遺産登録に向けた取り組み	世界	●							●	
		② ニッ森貝塚史跡公園管理	世界	●							●		
		③ 史跡土地買い上げ事業	世界							●	●		
		④ 国指定有形民俗文化財の保管	生涯	●									
(3) 伝統芸能・工芸技術等の継承	3 (3) ①	七戸町郷土芸能保存会支援事業	世界	●									
(4) 文化交流センター施設の管理	4 (4) ①	文化交流センターの活用の充実	世界	●								●	
4	(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現	4 (1) ①	七戸町ジュニアスキースクール	生涯	●								
			② 町民スポーツ交流会	生涯	●								●
			③ 体育協会加盟団体によるスポーツ大会	生涯	●								
	(2) 競技者の育成を図る環境づくり	4 (2) ①	青森県民駅伝競走大会	生涯	●								
			② 体育協会補助事業	生涯	●								
			③ 七戸町スポーツ少年団活動費補助事業	生涯	●								
			④ 体育協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)	生涯	●								
			⑤ 七戸町スポーツ大会等選手派遣補助事業(東北大会・全国大会)	生涯	●								●
		⑥ 健康増進生涯スポーツ普及事業	生涯	●									
(3) スポーツ振興の体制整備	4 (3) ①	スポーツ推進委員研修	生涯	●									
		② スポーツ顕賞表彰	生涯	●									
		③ 各種大会開催や合宿等の誘致	生涯	●									
5	(1) 公民館等の充実及び活用の促進	5 (1) ①	公民館運営審議員設置事業	中公	●								
			② 中央公民館(施設)事業	中公	●								
			③ 中央公民館分館事業	中公	●	●							
			④ 中央公民館講座開設事業	中公	●								
			⑤ 寿大学開設事業	中公	●	●							
			⑥ 柏葉大学開設事業	南公	●								
			⑦ 七戸南公民館講座開設事業	南公	●	●							
			⑧ 七戸南公民館分館事業	南公	●	●							
(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援	5 (2) ①	文化協会の育成支援事業	中公	●									
		② 七戸町連合婦人会育成事業	中公	●									
		③ 中央公民館だより発行事業	中公	●	●								
6	(1) 図書資料の整備充実と利用の促進	6 (1) ①	中央公民館図書室事業	中公	●								
			② 図書館サービス事業	中図	●								
			③ 図書館協議会の運営	中図	●								
	(2) 読書活動の推進	6 (2) ①	子どもの読書活動推進事業(中央公民館)	中公	●								
			② ボランティア活動の育成支援事業	中公	●								
			③ 子どもの読書活動推進事業(中央図書館)	中図	●								
	④ 生涯学習の推進・支援事業	中図	●										

※学務：学務課 生涯：生涯学習課 世界：世界遺産対策室 中公：中央公民館 南公：南公民館 中図：中央図書館

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(1)②	担当課	学務課	担当者	古屋敷 博
事業名	少人数学級編制等研究事業				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源				

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	少人数学級編成を実現するため、県から希望する学校へ常勤講師を派遣して、児童生徒1人1人に対してきめ細かな学習指導を行うことによって、学力の向上を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	この事業は、青森県教育委員会の事業で、町の負担はない。授業の指導のみではなく、学級指導や給食指導も行う。本年度は、あおもりっ子育みプラン21により、七戸小学校に1名、天間林小学校に1名配置された。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)	配置校・人数	七戸小1名、天間西小1名	七戸小1名、天間林小1名

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	本事業は、小中学校を対象とした青森県教育委員会の事業である。常勤講師を配置することによって、他の教員の負担が軽減され、児童生徒への指導が充実するなど教育環境全体の効果を上げている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	本事業は青森県教育委員会事業であり、町の財政的負担を伴わない事業であるため、費用対効果が大きい。教職員の事務量が増大してきている中で、児童へのきめ細かな学習指導に効果が大いいため、継続して県に対して要望・申請する。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(1)③	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	英語教育コーディネーター配置事業				

事業費	年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	決 算 額(千円)	1,392	1,411	241	
	財 源 内 訳	国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
一 般 財 源		1,392	1,411	241	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	小学校新学習指導要領(平成29年文部科学省告示第63号)により、2020年度から小学校において英語が教科となるため、英語指導の専門性を有する者を設置し、小学校教員の指導力を養成するとともに、児童の学習援助及び学校の教育力を向上させるため。	<input type="checkbox"/> 内容
		学校長の指揮のもと、次の業務を行う。 1. チーム・ティーチングによる授業支援及び学習指導に関わる教員の指導。 2. 学年の年間指導計画、学習到達目標の整備に関わる指導。 3. 教員の英語力向上を図るための校内研修の計画・実施に関わる指導。 4. 学習到達評価の枠組み及び評価実施方法の設定に関わる指導。	

事業効果	年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
	配置校・配置人数	天間西小学校 1名	天間林小学校 1名	七戸小学校 1名

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)			
	A 町民ニーズは高い		B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)			
	A 町が行うべきである		B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)			
A 成果は上がっている		B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)				
A 公平に配分されている		B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)				
A コスト削減の余地はない		B コスト削減の余地はある	A	
(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他				
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)				
A (75%)		B (50%)	C (25%)	B
優先性が高い			低い	
評価の説明	小学校教員の英語指導力の養成と児童の学習援助等を目的として平成30年度から実施。令和元年度は天間林小学校を拠点校に1名配置し、町内全小学校(3校)で活動した。チームティーチング(TT)による指導や指導計画立案の援助などを行い、英語指導の充実が図られた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	初年度(平成30年度)は試験的運用で天間西小学校にのみ配置したが、令和2年度は、七戸小学校を拠点校として町内全小学校(3校)で活動した。次年度以降も継続していく。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	1(2)①	担当課	学務課	担当者	天間 正子
事業名	七戸町教育奨励賞				

事業費	年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	決 算 額(千円)	105	97	78	
	財 源 内 訳	国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
	一 般 財 源	105	97	78	

事業概要	□ 目的	児童生徒が教育文化活動・スポーツ活動において優秀な成績を収めた団体及び個人を表彰することにより、能力開発や健全育成を図ることを目的とする。	□ 内容	表彰基準に該当する者で学校長及び各種スポーツ少年団本部長から推薦があった者の中から教育委員会が審査し、各賞を決定する。 表彰式は年1回実施。
------	------	---	------	---

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
	特別優秀賞	個人の部1名	該当者なし	該当者なし
	最優秀賞	個人の部2名	個人の部4名	個人の部11名
	優秀賞	団体の部1団体、個人の部22名	団体の部2団体、個人の部25名	個人の部6名
	優良賞	団体の部2団体、個人の部14名	団体の部2団体、個人の部18名	団体の部1団体、個人の部21名

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			B (イ)、(エ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			B
評価の説明	七戸町教育奨励賞表彰要綱の表彰基準を満たし、各学校長並びにスポーツ少年団から推薦された児童生徒について公平に審査を行った。教育文化及びスポーツ活動において、児童生徒の能力開発、健全育成の充実に繋がっている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	少子化により上位大会の出場権が得られやすくなっていることにより、表彰基準の該当率が高くなっている。このことから、引き続き、表彰基準を慎重に検討し、児童生徒にとって教育文化活動及びスポーツ活動の活性化に繋げていく。
----------	---	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(2)②	担当課	学務課	担当者	天間 正子
事業名	教育福祉援助基金給付事業				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	決算額(千円)	1,500	1,500	1,000	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	1,500	1,500	1,000
		町債			
一般財源					

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	高等学校・高等専門学校へ進学し、勉学に意欲的に取り組み、他の模範となる生徒に対し、七戸町民として自覚と誇りを持ち学業に励んでもらうために、入学祝金として奨学金を授与する。	出願資格は、七戸町民で、七戸町内の中学校3学年に在学し、翌年度に高等学校・高等専門学校へ進学する者で、学業優秀な者(成績評定が3.5以上)であること。

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
	給付金額(円)	1,500,000	1,500,000	1,000,000
	給付者数	30人	30人	20人
	給付金額(1人当たり)	50,000	50,000	50,000

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	中学校生徒に奨学金を直接交付することにより、町として期待の意を伝えることができ、修学の意義について考えてもらう良い機会となっている。そのことが修学意欲の向上に繋がり、その後の郷土愛の発揚にも寄与している。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	事業の趣旨に即した成果を得られている。 生徒数も減少しているため、令和2年度から町内中学校全卒業予定者数の20%以内を対象人数とし、本事業を可能な限り継続していく。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(2)③	担当課	学務課	担当者	中村 彰悟
事業名	奨学資金貸付事業				

事業費	年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	決 算 額(千円)	21,340	19,140	18,080	
	財源内訳	国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
	一 般 財 源	21,340	19,140	18,080	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	七戸町に住所を有する者の子弟で、学業の優れた学生及び生徒であって経済的理由により就学が困難なものに対して資金を貸し付け、人材育成を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	貸付を受けることができる者は、学校教育法第53条に規定する学部、学科及び課程に在学する者、又は法第82条の3に規定する専修学校の専門課程に在学し、父母又は後見人等が七戸町に1年以上住所を有する者、外国の大学に在学する者。 貸付額は、大学に在学する者は4万円以内、外国の大学に在学する者は5万円以内、大学又は専門学校に進学する者は入学一時金として50万円を限度に貸し付けする。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
	貸付額(円)	21,340,000	19,140,000	18,080,000
	貸付者(新規・継続)人数	36	33	32
	新規採用者(再掲)	14	11	9
	滞納総額(円)年度末現在	16,241,900	16,197,500	15,439,600

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	町民ニーズは高く、保護者の経済的支援をしている。大学等進学率など教育を受ける機会の増加に効果を上げており、成果が上がっている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	貸し付け申請や償還の事務処理を効率よく、かつ厳正に行うことにより、より安定的な運営を行うことができ、長期にわたる運営を可能にできるよう努める。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	1(2)④	担当課	学務課	担当者	天間 正子
事業名	特色ある学校づくり推進事業				

事業費	年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	決算額(千円)	1,438	1,244	1,227	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
	一般財源	1,438	1,244	1,227	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	児童生徒の「生きる力」をはぐくむため、教育活動・学校行事(文化芸術事業・体育事業等)などの学校教育課程に位置づけられる教育活動を推進することを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	各小中学校が、通常の授業では得ることのできない教育活動を企画し、予算の範囲内において、学力向上を掲げる教科の教材費や専門的な知識・技術を有する外部講師に対する謝礼金等各学校において柔軟な事業を実施した。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
	対象小学校件数	4校	3校	3校
	小学校補助金額	955,000円	770,000円	747,000円
	対象中学校件数	2校	2校	2校
	中学校補助金額	483,000円	474,000円	480,000円

事業評価	評 価 項 目			評 価	
	事業	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			B
評価の説明	各小中学校の特色を生かした行事等を自由に計画できることから、各校からのニーズは高い。学校の規模(学級数・児童生徒数)により補助金額を決定・交付し、各校において教育目標を達成するために独自の・柔軟的に事業を実施している。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	教育課程で生きる力を育むための事業であり、各校独自の事業を実施。通常の授業では得ることのできない知識や教養を身につけることのできる事業であり継続の要望は大きい。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(3)①	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	学校検診事業				

事業費	年度	平成30年度	平成元年度	令和2年度	
	決算額(千円)	1,374	1,304	1,333	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	1,374	1,304	1,333	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	学校保健安全法に基づき、健康な学校生活を送れるように検診を実施し、疾病の予防や健康づくりの意識を高める。	<input type="checkbox"/> 内容	・目の疾病および異常の有無 ・耳鼻咽喉頭疾患の異常の有無 ・心臓の疾病及び異常の有無(小学1・4年生、中学1年生) ・尿検査 ・貧血検査
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成30年度	平成元年度	令和2年度
	項目(単位)			
	眼科検診	493	450	447
	耳鼻科検診	953	944	908
	尿検査	1,003	912	954
	心電図検査	331	284	324

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	学校保健安全法に基づいた検査を行うことで児童生徒の健康状態を把握し、異常が見つかった場合は精密検査を勧めるなど、早期発見・早期治療につなげることができた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	学校保健安全法で規定されているものであるため、今後も継続して実施する。
----------	--	-------------------------------------

事業評価シート

事業細目番号	1(3)②	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	七戸町学校保健会補助事業				

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)			170	170
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			170	170

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	七戸町内の子ども園・保育園・小中学校及び七戸高校・七戸養護学校の児童・生徒の健康増進を図る。また、養護教諭、保健主事の資質向上を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	①学校保健衛生の施策に対する協力 ②保健衛生思想の普及啓発 ③学校保健に関する調査研究・事業計画および実践 ④学校関係者の指導および研修 ⑤学校保健施設の助成 ⑥学校保健資材の斡旋 ⑦家庭における保健思想の啓発 ⑧学校給食の実施・促進及び管理指導

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
全国学校保健主事・学校保健研究大会研		宮城県「自ら守り育てる心とからだ」	参加なし	中止
七戸町学校保健研究大会		天間西小「心身ともに健やかな子供たちを育てるために」	七戸中「生徒会保健委員会活動を通してけが予防と運動習慣形成をめざして」	中止
保健主事研修会		8月 夏季合同研修会	8月 夏季合同研修会	中止
//		12月 冬季合同研修会(普通救命講習)	1月 冬季合同研修会(普通救命講習)	中止

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い	低い	
評価の説明	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、多数の研修が中止となった。学校での健康指導に加え、研修等を通じ、家庭での健康への意識啓発につなげられるよう取り組む必要がある。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	令和2年度は研修など十分に行うことができなかったが、健康教育については横断的に取り組む必要があることから、保護者への情報提供の場としても、今後も継続していく必要がある。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ研修など実施できるよう努めていく。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	1(3)④	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)		4,351	5,023
財源内訳	国・県支出金	24	64	0
	その他			
	町債			
	一般財源	4,327	4,959	4,027

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学用品費等を援助することにより、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町就学援助費支給要綱に基づき、経済的に困窮し、就学困難な児童生徒の保護者から就学援助申請があった場合は、世帯の経済状況を審査し認定する。援助対象費目は、学用品費、通学用品費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費等。なお、要保護児童生徒に関しては、修学旅行費を支給する。

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
援助費支給額実績(円)		4,350,441	5,022,818	4,026,615
準要保護支給対象者		107	116	101
要保護支給対象者		1	2	0

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A	
評価の説明	経済的困窮世帯が多く、就学援助の必要性は極めて高く、児童生徒の就学支援の効果は高い。給食援助費については、町単独の学校給食費補助金から支給となることにより、区域外就学児童生徒の保護者(町立小中学校に就学する児童生徒の保護者で町外に住所を有する者)のみに支給されている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	経済的困窮世帯にとって当該事業の必要性は高く、児童生徒の教育に支障をきたすことの無いよう今後も事業を継続していく。また、手続き効率化の検討も続け、適正な運営を行っていく。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)③	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	教育支援委員会				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源					

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	保護者の希望により障がいのある、又は、発達や行動の気になる児童生徒にとって、適切な教育の場を決定できるよう、専門知識のある者によって構成された教育支援委員会において一定の判定をする。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町と東北町とで共同設置の中部上北教育支援委員会 (1)障がいのある、又は、発達や行動が気になる就学予定児、児童及び生徒の適切な教育措置に係る総合診断 (2)就学に係る教育相談 (3)その他、中部上北広域事業組合教育委員会教育長が必要と認めた者
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

7	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
	対象児童生徒数	25	33	21
	入級・入校判定者数	22	29	14
	実入級・入校者数	19	27	12

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	関係各機関と随時情報交換を行うことで、学校生活に関して困り感を抱えている児童生徒への適切な支援対策を検討することができた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	特別支援教育に対する保護者への不安や抵抗感を緩和するために、引き続き、適切な情報提供と対応を行っていく必要がある。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(5)①	担当課	学務課	担当者	倉岡 優樹
事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	決算額(千円)	8,928	7,649	6,444	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		8,928	7,649	6,444	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	外国語教育の充実を図るとともに国際交流の推進を図り、国際理解教育の推進を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	JETプログラム(語学指導を行う外国青年招致事業)を活用し、2人のALTを町内の小・中学校に派遣し、外国語教育の充実を図っている。 ①学校における外国語授業の補助 ②学校における外国語活動の補助 ③特別活動及び課外活動への協力 ④外国語担当教員の研修補助 ⑤外国語教材の作成の補助及びスピーチコンテスト等への協力 ⑥地域における国際交流活動への協力
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
	ALT派遣校等	小学校 4 中学校 2	小学校 3 中学校 2	小学校 3 中学校 2

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	教育委員会に所属するALT2名を七戸町内小・中学校に派遣し、各教員と連携して、生きた英語に触れる機会を増やした。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	ALT1名が継続3年目となり、学校とも良好な関係を構築できているが、夏季来日予定ALT1名の来日が延期となり、従来2名体制であった本事業を令和2年9月より1名体制で進めている。今後もコロナ禍での活動内容を慎重に検討し、引き続き外国語教育の充実を図っていく。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(6)①	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	七戸町教育振興会補助事業				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)		1,629	1,444
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	1,629	1,444	595

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	幼児・児童・生徒の教育文化及び体育の振興と教職員の資質向上に係る事業を行い、教育の振興を図る。	○幼児・児童・生徒の教育、文化及び体育の振興事業 スポーツ交流会、小・幼・保育園交流会等 ○教職員の資質向上事業 ふるさと研修、研究活動等

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
体育・学芸委員会		各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成
職員研修		ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等
先進校等研修(幼・保育園)実施		6校(6園)	5校(6園)	5校(6園)

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A	
評価の説明	七戸町の教育環境充実のため、教職員の資質向上や、こども園・保育園・学校間交流を行うことにより、進学のスムーズな移行に貢献している。		

今後の取組・課題 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、教職員向けの講習を例年通り行うことができなかったため、感染症対策を講じて実施方法など検討し、積極的に参加するよう促す。
--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(6)②	担当課	学務課	担当者	古屋敷 博
事業名	教職員ふるさと研修事業				

事業費	年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	決 算 額(千円)	10	10	10	
	財源内訳	国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
一 般 財 源		10	10	10	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	青森県教育委員会が定める初任者研修実施要領に基づき、市町村教育委員会研修として、七戸町教職員初任者及び赴任者を対象に七戸町の教育課題や文化、歴史等についての研修を行い、理解を深める。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町発展のあゆみや産業、文化について研修した。今年度は、史跡二ツ森貝塚、史跡七戸城跡、ひげ塚公園、見町観音堂、銀南木を見学し、説明を受けた。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年 度	平成30年度	令和元年度	令和元年度
	項目(単位)			
	参加者: 教職員	14人	10人	8人
	教育委員会	1人	1人	1人
	合計	15人	11人	9人

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	初任者及び赴任してきた教職員を対象にした研修で、町内の文化財等を実際に見学し、教育課題の研究や学習指導に役立てることに成果を上げた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	教材となる文化財等が多数存在するため、活用し、研修効果を高めるよう計画していく。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	2(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	坂本 真利子
事業名	家庭教育支援総合推進事業				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)		532	467
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	532	467	333

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	家庭における子育てやしつけなどを見つめ直すきっかけを作るため、町内のこども園、保育園、子育て支援センター、全小中学校において親などが参加する様々な機会を活用して、家庭教育に関する学習機会の提供を行う。	町内のこども園、保育園、子育て支援センター、全小中学校での子育て講座、家庭教育講座の実施。 思春期講座9回、虫歯予防講座1回、体操教室1回、工作等教室12回・・・計23回

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
実施講座数		33	27	23
参加者数		1,671	1,154	652

事業評価	評価項目		
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) 優先性が高い	B (50%) C (25%) 低い	A
評価の説明	家庭教育力の低下が指摘されている中、保護者が多数集まる参観日などの機会を利用し実施する子育て講座・家庭教育講座・思春期講座などの実施は非常に重要である。 また、対象の全施設で実施しており、講師も町内在住の指導者を活用するなど、学校・家庭・地域の連携が図られている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	対象の施設において親子で家庭教育講座などに参加する機会は重要であり、それぞれの施設で保護者のニーズにできるだけ応じた講座を実施しており、今後も事業継続要望があるため予算の確保に努める。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	2(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	町屋 壮太郎
事業名	放課後子ども教室推進事業				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)		1,480	1,307
財源内訳	国・県支出金		730	
	その他			
	町債			
	一般財源	1,480	577	894

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	地域の人材を活用した学習・スポーツ・文化活動等を実施し、放課後に子どもたちが安心して活動できる場の確保を図るとともに子どもたちの健全育成を目指す。	<input type="checkbox"/> 内容	・放課後対策事業の総合的な調整役を担う地域コーディネーターを配置。 ・活動の補助を担う教育活動サポーターを配置。 ・放課後子ども総合プラン指導員等研修会に参加。 ・軽スポーツ、習字教室、将棋教室等、各種体験活動を実施した。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
のべ開催日数		73	63	47
のべ児童参加者数		1,841	1,392	892
地域コーディネーターの配置者数		1	1	1
教育活動サポーターの配置者数		3	3	4

事業評価	評価項目		
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) 優先性が高い	B (50%)	A
評価の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からプログラムの開始を遅らせたため、開催日数や参加者数は前年度より減少しているが、その後の開催日数・参加人数を見ると町民ニーズは高い。各種体験活動により、放課後の活動の充実につながっている。 コストについては、体験活動の種類を増やしてほしいという児童・保護者からの要望を実現させるとすると削減は難しい。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	現在行っている体験活動をより充実させることや、新たなプログラムを導入することなどで、児童・保護者のニーズを維持できるかどうか事業継続のポイントになる。 本事業は地域コーディネーター・教育活動サポーターの担う役割が大きいため、引き続き人材の発掘及び、各種研修の充実努める。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	2(2)①	担当課	中央公民館	担当者	中村 真理
事業名	成人式開催事業				

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)		531	416	142
財源内訳	国・県支出金				100
	その他				
	町債				
	一般財源		531	416	42

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町の将来を担う新成人の門出を祝うとともに、成人としての自覚を促し、さらなる成長を期する。	<input type="checkbox"/> 内容	①式典(国歌斉唱、町民憲章唱和、式辞、記念品贈呈、誓いの言葉) ②記念撮影 ③思い出ムービー上映

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
対象者数		222	153	161
参加者数		128	89	0
参加率		58%	58%	0%

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている B 効果は上がっていない		B
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、式典が延期になった。 令和4年1月9日(日)に開催予定なので、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に務めながら式典内容等を検討中である。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	新成人にとって、より思い出に残る成人式となるよう、新成人を中心とする実行委員会を組織し、企画・運営できる体制を整備したい。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	3(2)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	大沢田亜希子
事業名	世界文化遺産登録に向けた取り組み				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)		9,625	68,380
財源内訳	国・県支出金		14,366	15,290
	その他			
	町債		46,700	35,000
	一般財源	9,625	7,314	15,607

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	国史跡二ツ森貝塚が世界文化遺産登録の構成資産となっていることから、青森県などと連携を図り登録を目指す。また登録に向けて町民の機運を高める事業を実施する。	<input type="checkbox"/> 内容	史跡二ツ森貝塚ガイダンス施設の整備(資料調査、展示業務等)ガイダンス施設開館に向けてのPR活動(チラシ製作、オープニングセミナー開催等) 二ツ森貝塚、ガイダンス施設への案内経路看板の設置 二ツ森貝塚史跡公園見晴らし台の補修

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
見学者(推定)		約1000人	約1000人	約1000人
プレハブ見学日誌記帳者数		380人	645人	671人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (エ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A	
評価の説明	世界文化遺産登録に向けた取り組みは、イコモスによる現地調査が行われいよいよ最終段階となった。ガイダンス施設については、展示整備事業が完了した。登録の機運を高める事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止・縮小という状況となったが、今後の各種講座については、社会教育事業としての開催、また、民間事業者等との連携も可能であり、事業の精査・統合について検討していく余地がある。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	世界遺産登録に向けイコモスの現地審査が行われるなど、引き続き県及び関係市町と連携し対応をしていくことになる。 二ツ森貝塚のガイダンス施設については、適切な管理・運営を着実に進めていく必要がある。 史跡来訪者の受け入れの要となるボランティアガイドの養成が遅れており、引き続き強化していかなければならない。 また、世界遺産登録後の講座等教育普及事業の在り方について検討する必要がある。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	3(2)③	担当課	世界遺産対策室	担当者	大沢田亜希子
事業名	史跡土地買上げ事業				

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)			35,530	52,981
財源内訳	国・県支出金			28,323	42,384
	その他				
	町債				
	一般財源			7,207	10,597

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	国史跡二ツ森貝塚及び七戸城跡を保護するため土地の買上げを行う。	土地の買上げ及び移転補償を行うため、不動産鑑定及び建物等移転補償費調査委託を行い、適正な土地価格と補償額で買上げを行う。 ※令和2年度は事業なし

事業効果	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)				
二ツ森貝塚取得面積			6,620.64㎡	3,121.51㎡	0㎡
公有化率			58.57%	61.21%	61.21%
七戸城跡取得面積			0㎡	0㎡	0㎡
公有化率			87.21%	87.21%	87.21%

事業評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	史跡二ツ森貝塚は、平成27年度に国史跡の追加指定を受け、平成27年度から毎年計画的に土地の買上げを実施しており、公有化率が向上した。令和元年度をもって第1期事業が完了している。七戸城跡は、昭和16年に国史跡指定、平成元年、12年と追加指定を受けている。買上げは昭和50年度から実施してきたが、平成20年度以降は財政的な余力がなくなり凍結してきた経緯がある。買上げにあたっては、地権者の高齢化や建物の老築化等、所有者の意向と緊急性を考慮し計画的に行っていく必要がある。令和2年度は事業なし。	

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	史跡二ツ森貝塚の公有化については、5カ年の第1期事業分を完了した。史跡七戸城跡については、平成29年度事業を最後に実施していないが、両史跡ともに今後も遺跡保護のため公有化を進める必要がある。次期事業開始に向けて再度所有者の意向を確認しながら計画していくことになる。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	3(4)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	大沢田亜希子
事業名	文化交流センターの活用の充実				

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)			692	241
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			692	241

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	文化交流センターは、歴史民俗資料展示施設としてのほか、文化財の保管場所になっており、その活用を図る。	文化交流センターの2階の一部を歴史民俗資料展示室とし、当町の文化財資料の公開活用を図る。 南公民館の西野分館の機能や避難場所になっているため、施設の維持管理を行う。

事業効果	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)				
利用者数			235	355	58

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		B
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		C
評価の説明	文化交流センターは平成17年度から児童館施設として、また歴史民俗資料展示施設として文化財の保管保存、さらに体育館施設からなる複合施設として供用を開始したが、児童館廃止後は常勤者もいなくなり、施設の公開活用が難しくなっている。 西野分館の活動の場所として、年数回利用されているほかには、一般の利用はない。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により長期閉館となるなど、利用者は激減した。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	歴史民俗資料展示施設として、七戸町の歴史文化を紹介する事業の展開は必要であるが、二ツ森貝塚館の開館を踏まえ、展示内容の再構築等、センターの在り方について再検討の余地がある。 また、公民館分館や避難所、選挙投票所として老朽化した施設の維持管理を継続する必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	4(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	小又 栞
事業名	七戸町ジュニアスキースクール				

事業費	財源内訳	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		決算額(千円)		120	120
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源		120	120	140

事業概要	□ 目的	□ 内容
	スキーの基本練習を通し、技術の向上とスキーの楽しさを体感するとともに、健康及び体力の増進を図ることを目的とする。また、参加者同士が行動をともにすることにより、望ましい人間関係を育む。	対象 町内の小学生(1年～6年) 講師 七戸町スキークラブ員 回数 4回

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
参加者数(延べ人数)		360名	304名	264名

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	アルペンスキーの講習会として町内の小学生を対象としており、雪国の冬期間のスポーツとして、また、他校の生徒との交流の場として、町民のニーズは高い。また、スキークラブと連携し、継続した参加に向けた取組として、講習内容など改善が図られている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	各小学校でもスキー教室は行っているが、その機会は少なく、町主催のスキー教室の継続は必要である。また、よりウィンタースポーツに慣れ親しんでもらうため、スノーボード講習会の実施について、関係団体と引き続き協議を行う。スキー教室の成果の場として開催する、スキー大会(町スキークラブ主催)への参加者増加に向けた検討を行う。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	西野 康平
事業名	町民スポーツ交流会				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)		160	113
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	160	113	0

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町民に広くスポーツ・レクリエーション活動の場を提供し、健康保持、体力増進及び相互の交流を図り、生涯を通じたスポーツ活動の参加意欲の向上を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	平成25年度より「七戸ギネスチャレンジ」と名称変更し、誰でも気軽に参加出来る種目とし、七戸独自の記録として毎年新記録を目指すと共に、スポーツの楽しさと健康増進を図り町民相互の親睦が図れるよう参加を募る。 対象 町民(個人、町内会、分館、スポ少単位) ※幼児から高齢者まで
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
	七戸ギネスチャレンジ	5種目	5種目	中止
		10団体 176名	6団体 136名	

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A	
評価の説明	新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は中止となったものの、今後も本事業をスポーツの楽しさや健康増進の機会を提供する場として実施し、引き続き、参加者が増加する仕組みを検討していく必要がある。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	種目や開催方法を検討し、より多くの町民が参加できるようにする必要がある。参加者が減少傾向にあるため、対象者の拡大や開催時期などを検討する。スポーツ少年団や体育協会へも参加を呼びかけ交流を図る。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	4(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	金澤 隆洋
事業名	体育協会加盟団体によるスポーツ大会				

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	財源内訳	決算額(千円)		3,833	3,533
国・県支出金					
その他		2,067	2,113	164	
町債					
一般財源		1,766	1,420	140	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	体育協会加盟団体による教室及び大会開催費に対する支援をすることで、地域スポーツ活動の普及・奨励に努める。各競技による通常の大会とは別に、広く町民を対象とした生涯にわたるスポーツライフの実現を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	○体育協会加盟団体主催ナイターリーグ大会 (バドミントン、バレーボール) ○体育協会加盟団体主催大会等 (ソフトテニス大会)

事業効果	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)		2教室等、13大会	2教室等、9大会	3大会
	教室・大会数		2,417名	1,781名	313名
参加者数(人)					

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多数の大会が中止となったが、この影響の終息後は引き続き大会を開催する見込みであり、町民からのニーズは高い。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	新型コロナウイルス感染症の影響で多くの大会を開催できないなかったが感染症対策ガイドラインを踏まえた上で、大会を充実させ町民のニーズに応えていきたい。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	4(2)①	担当課	生涯学習課	担当者	富浦 奨平
事業名	青森県民駅伝競走大会				

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)		932	856	0
	財源内訳	国・県支出金	60	60	0
		その他			
		町債			
一般財源		872	796	0	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	大会を通じて七戸町民の一体感を高めるとともに、スポーツ(陸上競技)に対する理解と関心を高め、活力ある町づくりとスポーツ振興を目的とする。	県内全40市町村が参加し、青森市内の9区間を市の部・町の部・村の部でそれぞれ競う。令和2年度は開催中止。 選手 ・一般男子 6人(一般 6人) ・中学生男子 4人 ・女子 4人(一般 2人 高校生 1人 中学生 1人) ・小学生男子 2人 ・小学生女子 2人

事業効果	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)				
	成績		町の部 5位 総合 13位	町の部 6位 総合 15位	開催中止

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A	
評価の説明	町民が一体感を強めることができるスポーツイベントで、毎年入賞を目指し監督・コーチを中心に練習会や選考会等を開催し、選手の強化を図っており、県内トップクラスの選手も育成されている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	中学生以上女子区間・一般男子を走る選手の確保が課題であり、監督及びコーチと連携し選手の発掘を行う。 今後も毎戸配布をするなど、広報活動に積極的に取り組み、新戦力の発掘及び県民駅伝大会の更なる周知を図る。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	4(3)②	担当課	生涯学習課	担当者	金澤 隆洋
事業名	スポーツ顕賞表彰				

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)		206	209	74
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源		206	209	74

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スポーツ活動において、顕著な成績を残した者、町民の健康福祉の増進に功労があった者又は広く町民の模範となるべき者を顕賞する。	<input type="checkbox"/> 内容	スポーツ顕賞(①スポーツ功労賞 ②スポーツ賞 ③スポーツ優秀賞 ④生涯スポーツ奨励賞)の顕賞を行う。 各種団体、県内外の高校から推薦基準に基づき推薦を受け、七戸町スポーツ顕賞審議会で審議し、顕彰者を決定する。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
	スポーツ功労賞受賞者数	個人1名	個人1名	該当者なし
	スポーツ賞受賞者数	該当者なし	個人1名	個人1名
	スポーツ優秀賞受賞者数	個人9名	個人5名・団体1(13名)	個人1名
	生涯スポーツ奨励賞受賞者数	個人10名・団体2(19名)	個人1名・団体1(9名)	該当者なし

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A	
評価の説明	スポーツ活動で顕著な功績・成績のあった個人・団体を顕賞し、受賞者の功績を広く町民に周知することで、スポーツ活動への意欲・関心を高めるものであり、町のスポーツ振興へもつながっている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	各賞の種目及び大会種類による推薦基準の見直しを行ったことから、各種団体及び関係者等への周知を図り、候補者の推薦を円滑に行う。 また、必要に応じて推薦基準の見直しを行う。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(3)③	担当課	生涯学習課	担当者	中村 陽一
事業名	各種大会開催や合宿等の誘致				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源				

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	町内にある、スポーツ施設の利用促進を図ることを目的とする。	各種大会及びイベント事業等の開催誘致。

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
	大規模な大会・イベント集客数	七体/4月:桜花柔道大会 1,000人	七体/4月:桜花柔道大会 800人	七運/7月:町長杯サッカー大会 500人
	〃	七体/6月:商業祭 1,000人	七体/6月:商業祭 1,000人	七体/12月:フットサルウインターカップ 300人
	〃	七体/7月:防犯剣道大会 1,000人	七体/7月:防犯剣道大会 800人	
〃	七運/6~8月:野球東北・県大会 各400人	七運/6~8月:野球東北大会 各300人		

事業評価	評価項目		評価	
	事業	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	規模の大きな大会・イベントを開催することで、施設の利用促進に繋がり、町の大きなPRにもなる。また、県・東北大会など、レベルの高い試合に接する機会を提供できる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	七戸体育館は耐震判定指標を満たしていないため、大会の開催等について利用を制限している。 各施設の利用状況や維持更新費等を踏まえ、施設の集約と整備を計画的に進めると共に、利用方法や料金体系等の見直しを検討する。 また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、大会や合宿の誘致に努め、施設の有効活用を図る。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑤	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村 真理
事業名	寿大学開設事業				

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)			100	60
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			100	60

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	高齢者が「技術・技芸」「スポーツ」「健康」「一般教養」の学習を図り、長年にわたって培った豊富な経験、知識、技術をさらに高め、健やかで生きがいのある人生を送り、社会活動に参加する学習機会を提供することを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	6月：開講式(金融広報アドバイザー出前講座) 7月：健康教室(グラウンドゴルフ) 8月：町内施設研修(東八甲田ローズカントリー外) 9月：舞踊・お菓子作り教室 10月：手工芸教室(ちぎりあーと) 11月：健康教室(健康体操) 12月：和太鼓教室・開講式(お楽しみ会)
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)				
開催数			10回	10回	8回
参加者数(人)			233人	201人	121人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (ア)、(エ)
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1ヶ月遅れのスタートとなったが、健康教室にも積極的に参加し、心身ともに健康になれるように全ての講座に意欲的に取り組んでいた。 町内施設研修で七戸町の魅力を再認識し、受講生同士の交流と親睦が深まった。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	関係機関や関係課との連携を図り、学習内容をさらに充実させ、コスト削減に努める。 また、幅広い年代(60代～80代)の方が入学するので、アンケート調査を実施したり、町民の意見や要望を取り入れ、施設、設備環境に配慮し、学習機会を提供する必要がある。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑧	担当課	七戸南公民館	担当者	天間 孝栄
事業名	七戸南公民館分館事業				

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)		800	800
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源		800	800

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	地域住民の知識・教養を高め、健康の増進を図り、心豊かで潤いのある生活の増進に努める。	旧七戸中央区以外の4地区(野々上、西野、倉岡、鶴児平)に分館を設置し、各地区において特色のある事業を展開し、地域の生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。事業内容としては、運動会・各種学習会・環境整備等の分館業務を委託する。

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
分館数		4	4	4

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
		(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	B
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	B	
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A	
	優先性が高い			
評価の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため例年通りの活動ができず、各種事業の縮小や中止により委託料の一部返還が生じた。分館の地域性、独自性を持って、地域住民のニーズに沿った事業を実践することにより、地域コミュニティをより充実させる事を目標に、引き続き分館における課題を協議し、各分館の連携を図ることが必要である。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	分館は、地域性を活かした事業を実行するように努めるとともに、分館間での情報共有の機会を設け、意見を交換している。 今後は、情報共有に基づき、地域課題を見つけ、それに重点を置いた事業を展開することが望まれる。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	6(2)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村 真理
事業名	子どもの読書活動推進事業				

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)			24	24
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			24	24

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	すべての子どもがあらゆる機会、場所において自由で公平に読書を行うことができるよう、読書環境づくりを推進する。	<input type="checkbox"/> 内容	①おはなし会(春・夏・クリスマス・冬)開催と絵本の展示による啓発 ②朝の読み聞かせ(小学校・こども園) ③学校巡回配本(小学校・こども園) ④読み聞かせボランティアの育成

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
児童図書貸出冊数		5,789 冊	5,187 冊	3,713 冊
おはなし会参加人数		284人	264人	112人
学校配本冊数		1,800 冊	1,130 冊	840 冊

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	子どもが読書への関心を高めるよう、小学校の朝の読み聞かせ、おはなし会等を開催し効果を上げている。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、こども園での読み聞かせは自粛した。 子ども読書活動推進のために、読み聞かせボランティアとの連携と支援を行っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	子ども読書活動推進のため、本に親しめる環境整備と、読み聞かせボランティアの育成は、今後も継続して支援を行っていく必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	6 (2) ③	担当課	中央図書館	担当者	上原子 洋子
事業名	子どもの読書活動推進事業				

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)			106	92
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			106	92

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	「七戸町子ども読書活動推進計画」に基づき、すべての子どもがあらゆる機会、場所において、自主的に読書を行うことができるよう、読書環境づくりを推進する。	<input type="checkbox"/> 内容	①おはなし会の開催や絵本の展示による啓発活動 ②7ヶ月児健診を利用したブックスタート事業 ③学校巡回配本(月1回/低・高学年別) ④県立図書館事業「子どもの読書活動推進のための図書セット貸出」事業を利用した巡回配本。(保育園・幼稚園対象:家庭での読み聞かせ用絵本) ⑤読み聞かせボランティアの育成
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
おはなし会実績(回/人)		2回/28人	2回/40人	2回/31人
ブックスタート実績(人)		71人	47人	73人
学校配本実績(人/冊)		2,665人/5,974冊	2,468人/5,724冊	896人/2,223冊
図書セット巡回配本(ヶ所)		こども園・保育園 3ヶ所	こども園・保育園 3ヶ所	こども園・保育園 3ヶ所

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	子ども読書活動推進計画に基づき、おはなし会をはじめとした各種事業を実施し、子どもの読書への関心を高める活動を行っている。また、図書ボランティアの育成に関する支援も行っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	「七戸町子ども読書活動推進計画」をもとに、今後も継続して取り組んでいく。また、ボランティアの育成については、新規会員の確保も含め、支援を行っていく必要がある。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	6 (2) ④	担当課	中央図書館	担当者	上原子 洋子
事業名	生涯学習の推進・支援事業				

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	決算額(千円)			0	0
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			0	0

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町民への学習機会の提供及び学習活動の支援を行う。	<input type="checkbox"/> 内容	①図書館講座の開講 ②読書団体等への資料提供の支援や、イベントへの協力等 (“とっておきの話”懇話会)
------	-----------------------------	--------------------------	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	項目(単位)			
実施回数(回)		①0回, ②2回	①0回, ②2回	①0回, ②0回
参加延べ人数(人)		①0人, ②70人	①0人, ②64人	①0人, ②0人
講座名		-	-	-
		“とっておきの話”懇話会 21・22	“とっておきの話”懇話会 23・24	-

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	図書館を利用して研究等を行っている町民が中心となり、町の人や歴史にまつわる逸話を発表する場として「“とっておきの話”懇話会」を開催しており、その運営等の協力・後援を行っている。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止となった。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も継続して取り組んでいく。
----------	--	-----------------